

# 平成 28 年度シラバス「世界史 A」

教科担当：

校長 印	教頭 印
------	------

教科	地理歴史	単位数	2	履修年次	1 年園芸科	教科書「高等学校 世界史 A」(第一学習社) 副読本「ダイアログ世界史図表」(第一学習社) ワークノート「新課程用世界史 A」(第一学習社)
----	------	-----	---	------	--------	--

学習の目標	近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
評価のポイント	①定期考査 ②ファイルの提出 ③レポート、宿題などの提出物 ④授業への取組状況 ⑤出席状況等により総合的に評価

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
1	4	第 1 編 世界史へのいざない 第 1 章 自然環境と歴史 第 2 章 日本列島のなかの世界の歴史 第 2 編 世界の一体化と日本 第 1 章 ユーラシアの諸文明 1 節 東アジア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理とのつながりで歴史に対する関心を高め、自然環境と人類の活動が相互に作用しあっていることについて考察する。</li> <li>・鉄砲伝来や石見銀山の事例から、地図や年表に表す活動を通して、日本の東アジアの特質に対する関心を高め、中国の皇帝政治や北方民族との関係、東アジアの国際秩序について理解する。</li> <li>・東アジアの特質に対する関心を高め、中国の皇帝政治や北方民族との関係、東アジアの国際秩序について理解する。</li> <li>・漢字・儒教・仏教・道教などに関する様々な資料を活用して東アジアの特質を理解するとともに、日本の文化とも関連付けて多角的に考察し、その結果を適切に表現する。歴史が世界の歴史とつながっていることを理解する。</li> </ul>	授業態度 発問評価 提出課題
	5	2 節 南アジア 3 節 東南アジア  4 節 西アジア 5 節 ヨーロッパ  6 節 アフリカ 7 節 アメリカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南アジアの多様性について関心を高め、南アジアの宗教に関する様々な資料を活用して、各宗教が及ぼした影響について考察し、その結果を適切に表現する。</li> <li>・東南アジアにおける多様な社会・文化の形成について把握し、基本的知識を身に付ける。</li> <li>・西アジアで古くから文明が栄えた背景に関心を高め、オリエント・イラン文明について、日本への影響を考察し、その結果を適切に表現する。</li> <li>・西アジアに生まれたイスラームが広大な地域に急速に拡大し、独自の世界を形成したことを理解し、その知識を身に付ける。</li> <li>・ギリシア・ローマ文明がヨーロッパ世界の形成に与えた影響について把握し、その知識を身に付ける。</li> <li>・キリスト教がヨーロッパ文明の基調となり今日まで受け継がれていることを、思想・文学・日常の慣行や儀礼などの諸資料を活用して考察し、その結果を適切に表現する。</li> <li>・アフリカに古くから独自の文明や王国が存在したことに関心を高め、大河の流域ごとにアフリカの諸王国の特徴を理解する。</li> <li>・アメリカの文明の特色を、ユーラシアの諸文明と比較して考察し、その結果を適切に表現する。</li> </ul>	授業態度 発問評価 提出課題 定期考査
	6	8 節 ユーラシアの海の交流 9 節 ユーラシアの陸の交流  第 2 章 結びつく世界と近世の日本 ①～⑥  第 2 章 結びつく世界と近世の日本 ⑦～⑨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ムスリム商人、中国商人の活躍についての資料を活用し、海のネットワークの概要と交流の具体的様相を把握し、基本的知識を身に付ける。</li> <li>・遊牧国家の特徴やモンゴルによるユーラシアの一体化について理解し、その知識を身に付ける。</li> <li>・14 世紀から 18 世紀にかけての陸と海の動向について関心を高め、アジア諸地域の特質とその中での日本の位置付けを理解する。</li> <li>・イスラーム世界の成熟について、オスマン帝国の宗教政策の視点から考察し、その結果を適切に表現している。</li> <li>・明・清帝国と朝鮮・日本との関係、ムガル帝国・サファヴィー朝・オスマン帝国の動向に関する資料を活用し、基本的知識を身に付ける。</li> <li>・ルネサンスと宗教改革について関心を高め、その歴史的背景について考察し、その結果を適切に表現する。</li> <li>・「大航海時代」のヨーロッパとアメリカ大陸との接触・交流に関する資料を活用し、アメリカ大陸の先住民社会の変貌について理解する。</li> </ul>	授業態度 発問評価 提出課題

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
1	7	第2章 結びつく世界と近世の日本 ⑩～⑬	<ul style="list-style-type: none"> <li>16世紀から18世紀にかけてのヨーロッパ諸国の動向と国際関係の推移に関する資料を活用し、その知識を身に付ける。</li> <li>世界の一体化とそれに伴うアフリカ・アメリカの変容について関心を高め、多角的に考察し、その結果を適切に表現する。</li> <li>主権国家体制の成立と大西洋貿易の展開によるヨーロッパ社会の変容について理解し、その知識を身に付ける。</li> </ul>	授業態度 発問評価 提出課題 定期考査
		第3章 ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 ①～⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>イギリス産業革命の背景を世界史的視野からとらえ、産業革命の結果、資本主義経済が確立したことを理解する。</li> <li>産業革命が果たした歴史的意義について、関連する資料を活用して考察し、その結果を適切に表現する。</li> <li>アメリカ独立革命・フランス革命・ラテンアメリカ諸国の独立について関心を高め、それらの背景と影響について多角的に考察し、その結果を適切に表現する。</li> <li>アメリカ独立革命、フランス革命、ラテンアメリカ諸国の独立が果たした歴史的意義について考察し、関連する資料を活用して基本的知識を身に付ける。</li> <li>アメリカ独立革命、フランス革命、ラテンアメリカ諸国の独立が相互に関連をもちながら起こったことを理解する。</li> </ul>	
2	9	第3章 ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 ⑦～⑫	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウィーン体制下での自由主義・国民主義の運動について関心を高め、その歴史的意義を考察し、その結果を適切に表現する。</li> <li>国民主義の高まりがドイツ・イタリアでの国民国家形成の原動力となったことを理解し、国民国家形成までの過程を把握する。</li> <li>ロシアの対外進出の背景を理解し、その動きがもたらした影響について多角的に考察し、その結果を適切に表現する。</li> <li>西部開拓と先住民・アフリカ系の人々への抑圧、移民の流入についての資料を活用し、アメリカの国民形成の独自性について理解する。</li> </ul>	授業態度 発問評価 提出課題 定期考査
	10	第4章 アジア諸国の変貌と近代の日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヨーロッパを中心とするアジアでの国際分業体制の形成について、近代世界システム論の視点から意欲的に追究し、19世紀の世界の一体化とその特質を考察し、その結果を適切に表現する。</li> <li>ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容、その中での日本の対応に関する資料を活用し、アジア諸国の内部で進行していた変化とヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌について考察し、その結果を適切に表現する。</li> <li>日本の明治維新とその後の近代化の動きがアジア</li> </ul>	
	11	第3編 地球社会と日本 第1章 帝国主義の時代  第2章 急変する人類社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>帝国主義列強の世界政策によって世界がどのように変容したか、意欲的に追究する。</li> <li>帝国主義列強の植民地支配について、民族・国境など現在まで残る問題と関連付けて考察し、理解する。</li> <li>帝国主義列強の植民地支配、それに対する反帝国主義運動の高まりや近代化の動きについての資料を活用し、帝国主義列強の侵略にさらされたアジア・アフリカの変貌と諸民族の民族的覚醒について考察し、その結果を適切に表現する。</li> <li>19世紀末から20世紀初頭にかけての社会の急激な変化についての資料を活用し、現代の社会と関連付けながら考察し、その結果を適切に表現する。</li> <li>19世紀末から20世紀初頭にかけての欧米諸国や日本などに見られた社会の急激な変化を意欲的に追究し、現代社会の原型が成立したことを理解する。</li> </ul>	
12	第3章 世界戦争と平和 ①～⑥  第3章 世界戦争と平和 ⑦～⑩	<ul style="list-style-type: none"> <li>第一次世界大戦の原因について、これまでに学習したことと関連付けて、意欲的に追究する。</li> <li>第一次世界大戦についての資料を活用し、第一次世界大戦の性格と第一次世界大戦がもたらした世界の変化について考察し、理解する。</li> <li>ロシア革命とソ連の成立について、政治的・思想的影響について考察し、その結果を適切に表現する。</li> <li>国際連盟やヴェルサイユ・ワシントン体制の理念と現実、アジア諸国の民族運動について理解し、国際社会の枠組みの変化について把握する。</li> <li>第一次世界大戦後の世界の変化について、第二次世界大戦へとつながった問題点を含め、多角的に考察し、その結果を適切に表現する。</li> <li>世界恐慌からファシズムの台頭、第二次世界大戦に至るまでの過程を互いに関連付けながら、意欲的に追究する。</li> <li>世界恐慌の原因と影響、各国の恐慌対策、ファシズム台頭の背景と経過についての資料を活用し、第二次世界大戦の原因を考察し、その結果を適切に表現する。</li> <li>第二次世界大戦の性格と、その過程で生じた米ソ冷戦の芽や原爆使用の意味について理解し、その知識を身に付ける。</li> </ul>		

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
3	1	第4章 三つの世界と日本の動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米ソ両陣営の対立, アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立に対する関心を高め, 1970年頃までの世界の政治・経済の動向について考察し, その結果を適切に表現する。</li> <li>・米ソ両陣営の対立, アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立についての資料を活用し, 1970年頃までの世界の政治・経済の動向について理解する。</li> <li>・アジア・アフリカの民族独立運動, 第三世界の台頭とその国際的役割, アジア・アフリカ諸国が抱える諸問題について理解し, その知識を身に付ける。</li> </ul>	授業態度 発問評価 提出課題
	2	第5章 地球社会への歩みと課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1970年代以降の地球社会形成に向けての諸地域世界の情勢に関する資料を活用し, その知識を身に付ける。</li> <li>・東欧諸国の民主化とソ連の社会主義体制の崩壊について関心を高め, その歴史的意味を多角的に考察し, その結果を適切に表現する。</li> <li>・新聞やインターネットなどから国際社会の新しい動きや問題点についての情報を収集し, 有用な情報を選択して活用する。</li> <li>・現代社会の問題点を把握し, その解決のために日本が果たすべき役割について考察し, その結果を適切に表現する。</li> </ul>	授業態度 発問評価 提出課題 定期考査
	3	第6章 持続可能な社会への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の特質や課題について自ら主題を設定し, 主体的な探究を通して, 歴史的視野から認識を深め, 持続可能な社会の実現について展望する。</li> <li>・現代社会の特質や課題に関する資料を収集・選択・活用するとともに, 探究した成果を論述したり, 討論したりする。</li> </ul>	授業態度 発問評価 提出課題